

中沼了三杯・横地治男杯 隠岐少年武道大会

～ 中沼了三先生・横地治男先生のご紹介 ～



隠岐の島町の偉人

中沼 了三

略歴

1816年5月生まれ 現隠岐の島町中村地区出身

代々の医者の家系に生まれ 19歳の時に学問の為に京都へ。優れた大学者として名声を高める。その後、崇高な人柄と豊かな見識を以って京都にて私塾を開塾し若者への教育を行う。

その塾生には、薩摩の西郷従道（西郷隆盛の弟）や土佐の中岡慎太郎などがいた。

幕末から明治にかけては、尊王攘夷論が高まりつつある中で、勤皇思想や儒学学者として朝廷や明治政府から様々な役に任命される。【鳥羽伏見の戦いでは新政府軍参謀・孝明天皇と明治天皇の侍講（天皇の側に仕え学問を講義する役）・明治新政府の参与など】

孝明天皇の侍講時には、天皇の命により「学習院」を創設し同儒官となる。また同じく孝明帝の「十津川郷民は昔より正義に富み、皇室のためには生命財産をもともしないたのもしい人民である。なんじゆきてこれに文武の道を教え、他日の用に足るべく導くがよい。学校を文武館とせよ。」との。命により、現奈良県十津川村に「文武館」（今の十津川高校）を創設し大義名分を論じた。

1868年に隠岐の人々が勤皇思想・攘夷論から起こした独立政府運動の隠岐騒動では精神的支柱となっていた。

1896年京都にて逝去。



隠岐の島町名誉町民

横地 治男

略歴

1912年3月10日生まれ 現隠岐の島町平地区出身

昭和25年に塗料総合商社「ダイニッカ(株)」を設立。昭和45年には、故郷である隠岐の島町にて「隠岐プラザホテル」を開業。昭和47年に復活を遂げた「第一回隠岐古典相撲」の旗振り役を担い、以降「牛突き」などの伝統芸能の発展や「観光」など隠岐の島町の振興に深く寄与した。

昭和50年には、東京オリンピック柔道競技において、「神永昭夫とアントン・ヘーシンク」の試合の悔しさを発端にした将来の柔道界への憂いから、政界・経済界や各分野の著名人の方々等各界に声掛けし、東京都世田谷区に「日本柔道育英学会」を設立し、全寮制の柔道の私塾「講道学舎」を開設。「講道学舎」には、全国各地から中学生から高校生までの将来性豊かな子供たちが集まり、そして氏は、365日塾生とともに住み込んで、その指導に当たった。

塾生たちは、氏の口癖でもあった「日本一の桃太郎」になるべく、文武両道・心技体を講道学舎で学び、弦巻中学・世田谷学園高校に通いながら当時の柔道競技における数ある全国大会の優勝を総なめにするこもしばしばあった。

講道学舎の卒業生には、バルセロナオリンピック金メダリストの古賀稔彦氏・吉田秀彦氏、シドニーオリンピック金メダリストの滝本誠氏・リオデジャネイロオリンピック金メダリストの大野将平氏など4名のオリンピック金メダリストをはじめ、オリンピック・世界選手権また国内外の大会でも、数多くのメダリストや有名選手を輩出した。

昭和40年に紺綬褒章、平成7年に勲四等瑞宝章受章。

平成19年3月28日逝去